

平成21年度 事業計画書

自 平成21年4月1日
至 平成22年3月31日

東京都中央区築地2丁目11番24号
(財)日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)

平成21年度事業方針

昨年秋からの世界的な経済状況の変化は、自動車関連業界に大きな影響を与え、モータースポーツ界にとっても大変厳しい時期を迎えました。具体例としては、全日本ロードレースのJSB1000では昨年31名の年間登録者、が今年は18名に激減し、他の競技種目においても減少傾向にあります。

また、モーターサイクルスポーツの状況は、今回の経済危機以前より、ライセンス人口や参加者、観客の減少が続いており、国内二輪販売台数の減少、少子高齢化傾向など周辺を取り巻く環境も厳しい状況が続いています。今回の経済状況は数年続くことが懸念されることから、MFJの事業活動や組織等も環境に合わせた変化が必要であると考えます。しかしながら、このような環境であるからこそ、「スポーツ」は人々に「生きがい」や「夢」を与える重要な役割があると自負しており、平成21年度事業においては、削減すべきところは削減し、必要な事業には力を入れ、競技の内容や運営に関しても早急に実施可能な改善に着手し、平行して中期的対策を策定して行きたいと考えます。

◆平成21年度の見込み

ライセンス会員数 18,000名（前年比90.8%）

エンジョイ会員数 5,500名（前年比89%）

競技会数 550大会（前年比88%）

◆平成21年度のスポーツ事業への取り組み

- ・ 参加する側、運営側にとってコストを抑制する施策や体制作りを推進します。
- ・ 主要競技会の観客動員向上のため、地域密着を主眼とした企画を展開する。
- ・ 年少者／女性の普及対策
- ・ 安全・環境整備への取り組み
- ・ 競技運営を支える人材の育成

◆平成21年度管理部門における取り組み

- ・ 事務所の移転を今期中に行う（8月目標）
- ・ 会員管理システムをリニューアルし事務の効率化を図る。
- ・ スポーツ傷害基金の移行準備
- ・ 新公益法人移行への準備

以上

1. 競技会

1) ロードレース

(1) 世界選手権／国際競技会／特別競技会

開催日	格式	大会名	会場	MFJ共催	文科省後援
4月24日～26日	世界選手権	MotoGP日本グランプリ	ツインリンクもてぎ	○	○
5月22日～24日	国際選手権	FIMアジア選手権ロードレース日本大会	オートポリス	○	○
6月7日～8日	国際競技会	鈴鹿300km	鈴鹿サーキット		
7月24日～26日	世界耐久選手権	ココロ鈴鹿8時間耐久レース	鈴鹿サーキット	○	○
8月29日～30日	UAM国別対抗戦	アジア国別対抗ロードレース日本大会	スポーツランドSUGO	○	○

(2) 全日本選手権 (全7戦) 全大会MFJと共催／文部科学省後援

日程		会場	JSBの予選・決勝方法	
			予選	決勝
4月5日	第1戦	筑波	計時予選	1レース
4月19日	第2戦	鈴鹿2&4	ノックアウト方式	1レース
5月24日	第3戦	オートポリス	ノックアウト方式	1レース
8月30日	第4戦	SUGO	ノックアウト方式	1レース
9月27日	第5戦	岡山国際	ノックアウト方式	1レース
10月18日	第6戦	ツインリンクもてぎ	ノックアウト方式	1レース
11月1日	第7戦	鈴鹿 MFJ-GP	ノックアウト方式	2レース

- ①鈴鹿 2&4 はスーパーGT との併催。MFJ-GP は東コース開催
- ②GP125 にユースクラスを設け、次世代のライダーを育成する。〔19名登録〕
- ③GP250 は今年度にて終了するが4サイクル600プロトタイプ[®]の賞典外出場を許可する。
- ④JSB1000クラスの改造規則を安全/公平/安価の観点で見直し作業を開始する。

(3) 地方選手権において市販車4ストローク250車両の入門者クラスを促進。

※名称は「ST250F」 4ストローク 2気筒以下 145cc～250cc

2) モトクロス

(1) 全日本選手権は全10戦開催。観客増を目標とする施策を検討する。

	日程	会場		日程	会場
第1戦	3月15日	九州	第6戦	7月5日	北海道
第2戦	4月5日	近畿	第7戦	7月19日	東北(藤沢)
第3戦	4月19日	関東	第8戦	9月13日	近畿
第4戦	5月17日	中国	第9戦	10月11日	中国
第5戦	6月14日	東北(SUGO)	第10戦	10月25日	MFJ-GP(SUGO)

※最終戦MFJ-GPはMFJ共催／文科省後援

(2) 年少者の普及振興

チャイルドクロスを全戦で併催、最終戦は全国選抜大会とする。

(3) モトクロス全国大会

ジュニア国内A/B級の全国選抜大会を東北地区(SUGO)にて8月2日に開催。

※モトクロス選手会の協力により、選抜選手を対象としたレベルアップスクールを開催する。

3) トライアル

(1) 世界選手権トライアル

6月6日/6月7日 世界選手権ライダー日本グランプリ MFJ共催・文科省後援

(2) 全日本選手権

中国大会では、集客対策を主眼とした新競技方式で試験的に実施する。

	日程	会場		日程	会場
第1戦	3月8日	関東	第5戦	9月6日	中国
第2戦	5月3日	九州	第6戦	10月11日	中部
第3戦	5月24日	近畿	第7戦	10月25日	東北
第4戦	8月2日	北海道			

(3) トライアルグランドチャンピオン大会 11月8日 鳥取県・HIROスポーツ※レディスクラス開催

4) その他の競技

(1) スノーモビル (全6戦)

※開催は2009年1月～3月

	日程	会場		日程	会場
第1戦	1月25日	新潟(苗場)	第4戦	2月15日	北海道(士別)
第2戦	2月1日	長野	第5戦	2月22日	青森
第3戦	2月8日	北海道(和寒)	第6戦	3月1日	北海道(美瑛)

(2) スーパーモータード (moto1 オールスターズ全8戦)

	日程	会場		日程	会場
第1戦	4月12日	美浜(愛知)	第5戦	8月2日	SUGO(宮城)
第2戦	5月3日	琵琶湖SP(滋賀)	第6戦	8月30日	伊那(長野)
第3戦	5月31日	TS(広島)	第7戦	9月20日	HSR九州
第4戦	6月28日	EBS(福島)	第8戦	10月25日	もてぎ(栃木)

(3) エンデューロ

	日程	会場
第1戦	4月11～12日	SUGO
第2戦	6月6～7日	山都(熊本)
第3戦	9月5～6日	日高(北海道)

※全日本ドゥラッグレースは調整中

2. 普及事業

1) 年少者/女性/アジア対策 (スポーツ振興引当金対象事業)

(1) MFJロードレースアカデミー in MOTEGI

主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会

会場：栃木県・ツインリンクもてぎ。 期間：2009年3月～11月 (22日間)

募集：15名 (年齢12歳～18歳) 受講料 30万円

(2) MF J トライアルアカデミー

主催：(財) 日本モーターサイクルスポーツ協会

会場：茨城県・真壁トライアルランド 期間：2009年4月～11月(11日間)

募集：20名 年少者(9歳～18歳) 女性(年齢問わず) 受講料 11万円

(3) レディースロードレース。

女性ロードレースを年間3回・講習会3回(模擬レース含む)を開催する。

2009年度開催スケジュール・会場:筑波サーキット			
	第1回	第2回	第3回
講習会・走行会	2月27日(金)	5月29日(金)	9月16日(水)
レース開催日	3月15日(日)	6月6日(土)	10月4日(日)

(4) アジア国別対抗ロードレースの開催

開催日：2009年8月29日(土)～30日(日)

主催：(財) 日本モーターサイクルスポーツ協会

会場：宮城県・スポーツランドSUGO

対象：UAM所属国協会代表選手

3. 広報対策

会員に対する情報提供、メディア・販売店・一般への情報提供を内容に応じて下記媒体を活用し効率的に発信する。機関誌広告が減少するため、発行コスト削減に努める。

- 1) 機関誌ライディングの発行(年間8回+規則書)
- 2) プレスリリース(年間12回発行)
- 3) MF J ホームページの強化、構成等見直し。

4. プロモーション活動(全日本ロードレース)

特別会計で運営していた「プロモーション委員会」活動を一般会計に合算し、MF J 本体事業として行うこととなった。

- 1) 全日本ロードレース/モトクロス全戦の放映(CS放送)を促進。
- 2) 専用ホームページ「superbike.jp」による情報発信
- 3) メディア向けのシリーズ概要資料作成・配布
- 4) 販売店向け大会告知ツール等の制作・配布
- 5) 若手育成のユースカップ奨励賞設定

5. 安全・環境対策

- 1) ロードレースアカデミー・レディスレースでのエアバッグベスト導入
- 2) 安全装備の研究と推奨（胸部保護パッド・ネックガード等）
- 3) 環境整備委員会にて事故再発防止を主眼とする事故調査
- 4) モータースポーツライセービング機構（LSO）に加盟。講習会実施。（年間4回予定）
- 5) 全日本モトクロス・トライアルにおける簡易心電計の導入。
- 6) ロードレースにおけるサーキットアドバイザー制度の補助。（随時）
- 7) 公認コースの更新査察を実施。（6施設予定）
- 8) 観客安全対策の強化。（ネット・コーステフ°・立ち入り禁止表示等支援）
- 9) インストラクター養成事業（6月下旬東京にて開催）の継続ならびに、競技役員セミナー等で人材育成を行う。
- 10) ドーピングコントロールの実施
ロードレース・モトクロス・トライアルの全日本で年間各1回検査を実施する。
- 11) モトクロスの音量対策を継続する。

6. 地方組織について

- 1) 支部の「加盟団体」への名称変更と変更に伴う諸作業
- 2) 地域二輪車協会の協力を得て全日本選手権等主要イベントの集客向上を目指す。
- 3) MFJネットワークショップ加入の勧誘を行う。
- 4) 加盟団体会長・事務局長会議を定期的に開催する。

7. 国際対策

- 1) FIMバイアニュアル会議（10月ジュネーブ）のロードレース委員会、モトクロス委員会へ委員派遣並びに事務局員の派遣。
- 2) UAMアジア協会総会への出席
- 3) FIM規則の翻訳。
- 4) FIMセミナーの開催。（4月・トライアル）
- 5) 代表選手派遣
 - （1）モトクロス・トライアル国別対抗世界選手権に日本代表チームを派遣する。
MX=10月4日イタリア TR=9月20日/イタリア
 - （2）アジア国別対抗ロードレースに日本代表チームを派遣する。（日程未定）
 - （3）エンデューロ国別対抗戦ISDE（ポルトガル）出場者の選抜と認定。

8. その他の事業

1) 諸会議の開催

MFJ のスポーツ事業を円滑に推進するために必要に応じて諸会議を開催する。

・理事会／評議員会（6月／12月/3月）・加盟団体会長／事務局長会議・中央スポーツ委員会・技術委員会・専門委員会・部会

2) 会員管理システムの更新

会員管理システムソフトが旧式化し、バックアップサービスが受けられなくなることから全面的にリニューアルし、事務の効率化を図る。（今期中完了）

3) スポーツ傷害基金

スポーツ傷害基金の年次計画の策定、管理・運営を行う。

4) 50周年記念事業の準備

2011年に協会設立50周年を迎える為、記念事業の検討並びに準備作業を行う。

9. 公益法人制度改革への対応

1) 公益財団法人、一般財団法人の双方の場合の公益目的事業費率・遊休財産・税法上の変化等を、現在の財務諸表に将来見込みを加味したシミュレーションを実施し、6月の理事会・評議員会に報告する。

2) 新法では公益法人会計処理の能力が問われることから、会計面の強化をする為、公益法人に精通した会計事務所にコンサルティングを依頼する予定。（6月以降）

3) スポーツ傷害基金をスポーツ安全保険に移行する為のライセンス発行期間、保険料の入出金処理等の整備・調整作業を行う。

以上